

情報共有

宮野班 ← プレス班

(7枚)

HISA班

本店レク 議事メモ

日時：平成 23 年 5 月 8 日 (日) 11:00~12:05

場所：東京電力本店 3 階 AB 会議室

先方：記者約 35 名 (カメラ 3 台)

当方：原子力・立地本部

原子力設備管理部

本店広報部

配付資料

- ・ 東北地方太平洋沖地震による影響などについて【5月8日午前9時現在】
- ・ 福島第一原子力発電所 プラント関連パラメータ
- ・ 福島第一原子力発電所モニタリングカーによる計測状況
- ・ 集中廃棄物処理施設周辺 サブドレン水核種分析結果 (5/8 現在)
- ・ 福島第一 3号機 原子炉注水概略図
- ・ 1号機 R/B内空气中放射性物質濃度推移
- ・ 4号機使用済燃料プール写真 (5月7日午前11時頃撮影)
- ・ 福島第一 1号機原子炉建屋内の作業環境改善について写真 (5月6日撮影)

よりプラント状況、配付資料の説明を実施。

その後、1号機原子炉建屋内の作業環境改善についての映像、4号機使用済み燃料プールの映像について説明。

質疑

- Q. 1号機の原子炉建屋内の放射性物質の濃度は落ち着いているといていたが、5月7日3時18分以降、濃度は上昇しているようだが、要因は。
- A. 局所排風機による攪拌が要因と思われる。排気側は、吹き出し口から原子炉建屋内へ排気しており、攪拌されたものが吸気側に吸い込まれたため、変動があるのだと思う。
- Q. 原子炉建屋内の放射性物質の濃度は全体的に下がっていると考えて良いか。
- A. 放射性物質に濃度としては、 10^{-3} (Bq/cm³) から 10^{-2} (Bq/cm³) のオーダーなので、上昇傾向とは考えておらず、低減できていると考えている。
- Q. 保安院へは建屋内の放射性濃度はすでに報告したのか。
- A. 報告している。現在は、データの確認や濃度の変動に対する保安院と当社の見解について議論をしている段階である。
- Q. 東京電力の評価としては二重扉を開放しても問題ないというレベルの放射性物質の濃度と考えているか。

A. 当社としては、目標のレベルの濃度になっているので、今の状況で開放しても問題ないという認識であるが、環境への影響評価について、より慎重に保安院と議論している段階である。

Q. 二重扉を開放についての福島県への説明は終わっているのか。終わっていないのであれば、いつになるか。保安院への報告が終わってからか。

A. 現時点ではまだ説明を行っていない。保安院と協議をして、見解をいただいた後になる。目途としては確定しておらず、未定である。

Q. 二重扉を開放に至るまでのステップを教えてください。

A. 現在、保安院へ作業状況を報告している段階である。二重扉を開放した際の環境への影響評価をいただいたあと、実際に二重扉を開放する。平行して、開放前には地元の自治体へ環境影響評価についてお知らせする。

Q. 保安院からの評価は、文書形式で伝えられるのか。

A. 当社の報告書について文書か口頭で見解が伝えられると思うが、詳細は不明。

Q. 作業着手から二重扉を開放するまでの時間はどれくらいか。

A.それほど時間はかからない。現状でも二重扉は開いており、正圧ハウスなどを開放し原子炉建屋とタービン建屋を繋げるというものであり、何時間もかかることはない。

Q. 既に保安院への環境影響評価を報告していると思うが、以前説明を受けた環境影響評価とは当初の数値が違ふと思うが、今回はどういった数値の評価を報告したのか。

A. 環境影響評価については保安院に対して説明している段階であり、正確な数値ではないが、二重扉を開放した際に、敷地境界では 10^{-7} (Bq/cm³) レベル程度ではないかと考えている。現時点で、モニタリングを行っている西門の放射線量としては、 10^{-5} (Bq/cm³) レベルであり、二重扉の開放が線量に影響を与えることはないと思う。

Q. 敷地境界や西門の環境影響評価の数値のレベルとは3ヶ月平均の数値か。

A. 3ヶ月平均は線量評価であり、今回の環境影響評価は、放出があった場合、どれくらいの放射性物質の拡散があるかという数値 (Bq/cm³) の評価である。

Q. 4号機の使用済燃料プールの映像の説明で作業用架台が落下していたとあったが、元々どこにあったものか。

A. 作業用架台は通常、使用済燃料プールの壁面にある。強い地震によって落ちたのではないかと考えている。なお、中越沖地震の際に、柏崎刈羽原子力発電所でもこの作業用架台が落下した経験がある。

Q. タービン建屋内の映像の中のアララベンチジャンボの線量計のようなものは何か。

A. 周辺の雰囲気線量計である。作業員への注意喚起の意味で設置している。

Q. 二重扉開放を福島県以外に事前に報告する市町村はあるのか。

A. 福島第一原子力発電所周辺の13市町村に説明を実施する予定である。

Q. 敷地境界の 10^{-7} (Bq/cm³) レベル程度という評価は、何時時点でのデータをもとに算出しているのか。またその時点の数値を教えてください。

A. 直近の高い値である5月7日15時15分の数値をもとに算出している。数値としてはヨウ素 131 : 9.7×10^{-8} Bq/cm³、セシウム 134 : 4.9×10^{-8} Bq/cm³、セシウム 137 : 5.1×10^{-8} Bq/cm³。

Q. 環境影響評価の報告はいつ行ったのか。

A. 最初に報告を行ったのは、本日0時30分である。その後、東京電力から説明をしている。

Q. 二重扉開放のタイミングとして、陸地に行かないように、海の方に風がいく夜などに時間帯に行くことはあるのか。

A. 現時点で風向きを考慮して、時間を選ぶことはないが、現時点では海から陸地に風があるとして評価している。

Q. 4号機使用済燃料プールの映像の中で梯子のようなものが落ちていたが。

A. はっきりとは分からないが、もともとプールの中にあるものではなく、点検作業用にオペフロに置いてあった梯子が、地震によってプールに落ちたのではないかと思う。

Q. 4号機使用済燃料プールの映像の中で泡のようなものがでていたが。

A. 通常35℃くらいであり泡はでない。現状、水温としては、80℃から90℃くらいであるので泡が出ていたのだと思う。

Q. プールに落下物があったり、泡が出ているが、燃料に破損は無いのか。

A. 落下物自体が燃料のある内部まで損傷させていることはないと思う。水温が90℃と高い状態ではあるが、冠水できている状態なので、燃料損傷までは至っていないと思う。

Q. 1号機の原子炉建屋の環境改善だが、元の放射性物質の濃度がどれくらいで、二重扉を開ける前にどれくらいになっているのか、2階、3階、4階などを含めて濃度の総量では分からないか。

A. パックボットで測定した数値と今回の作業の前のサーベイしたものしかないため、それ以外の2階、3階、4階、地下1階にどれくらいあるのか、総量までは分からない。

Q. 3号機のタービン建屋から溜まり水の移送はいつ始めるのか。

A. 未定。

Q. 3号機の原子炉注水ライン切り替えに伴って復水器からタービン建屋に水を流すとのことだが、復水器内の水の分析は行っているか。

A. 復水器内の水の分析は行っていない。

Q. 復水器からタービン建屋に戻す水は、以前タービン建屋から復水器へ移送した水か。

A. 元々の計画として、タービン建屋の溜まり水を復水器へ移送する予定だったが、復水器内の水が満水だったため移送ができなかった。

Q. 復水器の放射性物質の濃度はどれくらいと予想しているか。

A. 最初のプラント停止の状態を維持しているとすれば、通常のレベルの濃度でないかと思っているが、タービン建屋から流れ込んできたという可能性を考えると、濃度として高いものもある可能性もある。

Q. 復水器の水の濃度とタービン建屋の濃度の比較をしないで、復水器からタービン建屋に戻すという判断の根拠は。

A. 復水器の中の水は通常レベルであり、高い濃度ではないと考えている。また、タービン建屋からの流れ込みがあれば、タービン建屋と同じレベルでことも考えられるが、戻してもタービン建屋の濃度以上のレベルにはならない。

Q. 6号機の仮設タンクへの移送に関して、仮設タンクの状況と復水器の残りの容量は。

A. 仮設タンクの増設状況と復水器の残りの容量は確認する。

Q. 1号機原子炉建屋内で強力なX線やγ線は出ているのか。

A. X線はないと思うが、γ線に関してはがれきや高濃度の水を内蔵している配管から出ている可能性があると思っている。

Q. γ線を遮へいする防護服の性能は。

A. 防護服で遮へいするというよりも、事前にサーベイして、仮にがれきから放射線が出ているのであれば撤去や鉛毛マットという鉛の毛布のようなものを被せて遮へいするなどしており、防護服自体が鉛装備というわけではない。

Q. 危険を伴う作業ということか。

A. 事前にサーベイする際も、棒の先に線量計を付けて測定するなどして、作業員が不用意に高線量のがれき等に近づかないように作業したいと考えている。

Q. 重装備の防護服は用意しているのか。

A. あると思うが、当面の間、それを使用する必要はないと考えている。

Q. 3号機圧力容器に新たに注水する給水ラインは、現在注水している消火系配管より下から注水するのか。

A. 今回、炉心スプレイ系*から給水ラインに切り替える主な目的は、確実に原子炉内に水を入れるということである。炉心スプレイ系の配管は、そこから枝分かれする配管が複数あり、注水した水が、原子炉以外の配管に逃げているものと推定している。給水ラインの配管は枝分かれが少ないため、原子炉に確実に水が届くものと考えている。圧力容器内の発熱源は燃料なので、燃料が水に浸かれば全体としても冷えるのではないかと思う。

給水ラインと炉心スプレイ系の配管では注水する場所は若干違うが、炉心スプレイ系はシュラウドの内側、給水系はシュラウドの外側に注水するという違いはあるが、このように圧力容器に水を入れて冠水への作業を進めていく。

*「炉心スプレイ系」については、後ほど「残留熱除去系低圧注水ライン」に訂正。

Q. 二重扉を開放した際の環境への影響は、扉を継続して開放している時間を考慮しているのか。

A. 当初、二重扉を開けてから1時間程度で原子炉建屋の換気はできると考えていたが、今回実際に局所排風機を運転させた際に、最初に舞い上がりのような傾向が確認されていることを考慮すると、1時間ではなく8時間程度出続けるものと評価して、 10^{-7} オーダーと評価している。

Q. 1号機の二重扉開放によって放出される放射性物質の総量はどのように評価しているのか。

A. 濃度かける建屋の体積かと思うが確認させていただく。

Q. 3号機復水器からタービン建屋への水移送でどの程度水位が上がるのか。

A. タービン建屋で約20cm、トレンチで7cm程度上がるものと考えている。タービン建屋には仕切り板や堰等もあるので一概に上がらないと考えており、過去にタービン建屋の上昇とトレンチの水位の上昇を比較した結果、それぞれこの程度水位があがるものと推定している。

Q. そうするとタービン建屋とトレンチの水位の増減はずれていくのか。

A. タービン建屋の水位を測定している場所とトレンチの測定している場所がそれ

それぞれあるが、タービン建屋の水面が真っ平らな状態ではないと考えている。

Q. 以前、3号機タービン建屋と4号機タービン建屋がつながっているとの説明があったが、今回、タービン建屋に水を移送することによって、4号機の水位も上がるのではないか。

A. おっしゃるとおり、4号機タービン建屋とつながっているため、移送した水が4号機側に行けば、タービン建屋の水位の上昇は小さくなるものと考えている。

Q. 1号機二重扉開放によるモニタリングポストの変動値は計算しているのか

A. 現在、福島第一原子力発電所の敷地境界の西門で測定しているダストのレベルが 10^6 程度のオーダーなので、今回の評価は 10^7 の影響があったとしても、ほとんどモニタリングポストや線量への影響はないものと思っている。

Q. ご提供いただいたアララベンチの映像の撮影時間は。また、1号機扉を開けた際の作業手順は。

A. 撮影時間は6日午後であるが、詳細な時刻は不明である。二重扉開放後の作業予定は、建屋解放してサーベイまでは実施するかと思うが、そのまま続行するかどうかは未定。

Q. 3号機使用済燃料プールの水をサンプリングするのは初めてか。また、いつ頃から実施する予定で、その際の映像はあるのか。

A. 3号機使用済燃料プールの水をサンプリングするのは初めて。使用済燃料プールの放水は本日の午後になると思うが、映像を撮影するカメラがあるかどうかは確認させていただく。

Q. 熱交換機の進捗状況。

A. 現在、工場での製造過程にある。明日以降、現場の確認からやる。機器自体が到着するのは早くても来週かと思うが、詳細は確認させていただく。

Q. 立坑の閉塞作業の進捗状況は。モルタルの注入作業は完了したのか。

A. モルタルの注入作業については、当初予定していた2日間から4日間になり、明日まで実施する予定。他のトレンチの閉塞作業の予定については現時点で未定。

Q. 3号機タービン建屋の水で750mSv/hという値があったかと思うが。

A. 3月26日に3号機タービン建屋たまり水の水表面を測定した結果で750mSv/hが出ている。

Q. 昨晚、3号機で黒い煙が上がったとの情報があるようだが事実か。

A. ユーチューブでそのような報道があることは聞いているが、現場から特に異常があったような報告を受けていない。パラメータも異常な数値が出ている訳では

なく、水蒸気が黒く見えたのではないかと思うが詳細は確認させていただく。

以 上